

和洋女子大学 総合研究機構 家庭科教育研究所 設立趣意書

2022 年 4 月

和洋女子大学は、2022 年に創立 125 周年を迎える。女子教育の先駆者として名高い創設者の堀越千代は、時代の先を見通し、洋裁の実学教育を通じて女性の経済的自立、社会進出を促した。女性の自立という高い理想を掲げ、それに至る道筋を具体的に示した創設者の教えは、まさに、家政学、そして家政学の教育の真髄を示すものである。この教育的実践は卒業生たちによって様々なかたちで実を結んでいる。多くの卒業生たちが社会人として、市井の人として活躍している。

それから 125 年後の今、人々の生活は大きく変わった。環境、国際理解、開発、人権、平等、地球規模の課題が山積し、それを乗り越え、持続可能な社会に向かう道筋は複雑に入り組んでいる。個人で理解できる力をこえた目に見えない情報や、生活の枠組みを動かす公共政策も作用して、生活の不確実性、不安定性が高まっている。

この時代を生きる私たちに求められることは何であろうか。それは、今起きている動きを人間がより良く生きる視点で吟味すること。与えられた環境、選択肢、現在の価値観の中で選択するのではなく、「私たちはこうなりたい」「こういう地域や社会をつくりたい」という明確な意思をもち、そこに向かって生活をつくりかえていくこと。そして、そこにすべての人を巻き込んでいく、当事者としての自発的な学びと行動ではないだろうか。

このような目標の実現は、一人の力ではなしえない。かつて本学の創設者堀越千代が実践したように、そこに至るまでの具体的な道筋と方法を、自ら発見し、身につけることができるような働きかけが必要である。生活に対する新しい考え方、生活行動を広げるために、一人ひとりが自分の生き方・ライフスタイルを発見し それを実現させていくための知識・スキルを身につけること、そして、個人や家族の課題解決だけでなく、新たな社会形成に直結する生活の力を育てる家庭科の教育が重要な役割を果たす。

家庭科がその期待に応え、じゅうぶんに役割を果たしていくには、家庭科自らのエンパワメント、そして、それを実践する家庭科教員のエンパワメントを実現しなければならない。そのためには、我々家庭科教育に関係する者が相互の知識や経験から学び合い、課題を乗り越える方法を共に考え実践する関係性・繋がりをつくることが不可欠である。

以上のような問題意識のもと、「家庭科教育研究所」は設立された。本研究所は、家庭科教育に関わる人たちがその立場や分野を越えて協働する拠点として機能することを目的にしている。ここを舞台に、家庭科の様々な専門領域の研究者による協働の活性化、家庭科の方向性の探究、研究成果の実践への還元、研究と実践の循環、教員の繋がり、情報交換、学び合い支え合う関係性の構築、どのライフステージからでも家庭科の学び直しができるしくみづくり等、様々な活動が展開されることが願いである。

家庭科教育の専門家、先生方、学生たちをはじめ、家庭科教育に関心ある皆様の「家庭科教育研究所」への参加をお待ちしています。

